



シニアプレミアム第15号

Smart senior council Kyushu

一般社団法人 九州賢人会議所

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 2-9-28 福岡商工会議所ビル 1F

TEL : 092-451-8610 FAX : 092-451-8612

E-mail : kyushu@kenjinkaigisho.com URL <http://www.kenjinkaigisho.com>

第8回 定時総会

令和4年6月14日（火） 福岡商工会議所にて

松尾会長 新入会員に対する期待、思いを語る

賢人会議所の立ち上げ当初、小早川理事長から会長就任の依頼を受けました。最初の内はお断りしましたが、結果的には引き受けました。設立当初は、定年退職者や60歳以上の人を入れることが目標で、ただ単に60歳以上の人を欲しいと思っていましたが、労働人口の減少を受け、外国から人を受入れようとする時代の流れの中、将来、単に外国人を含めた入会を考えるよりも、日本で退職した人、有能な人の活用を考えるべきと思うようになりました。優秀な人、やる気のある人に入ってもらい、大きな力になって欲しいのです。やむを得ず定年というだけではない、もっとそういう人を掘り出していければと思います。



講演会

テーマ：「日本一元気な障がい者が働く職場から繋ぐ企業との共存共栄」

～支えられる側からお互いにささえあう関係に～

講師：カムラック株式会社 代表取締役社長 賀村 研 氏

- ◆（プロフィール）賀村氏は、大学を卒業して建設企業に入社、その後システム開発会社、IT関連企業を経て独立。ITを活用した仕事で障がい者活用の場を創出、自立を支援する環境創りを目的として、2013年10月に株式会社カムラックを設立。その後、関連会社の株式会社 else if、2016年にスーパーカムラックを設立。
- ◆（ZOOM中継）講演は、奄美大島からのオンラインによる画像中継で行われました。



賀村 研 氏

カムラックは、自然環境に配慮すること、誰もが活躍できる社会と環境創りを目指しており、障がい者就労支援と社会を変えるベンチャースプリットを目的としています。全国から見学にくる企業も多く、新聞にも取り上げられました。

株式会社 else if は、ソフトウェア開発業務を軸としており、高齢者でも、子育て中のお母さんでも、障がい者でも仕事に対する情熱と技術があれば、誰でも働けるITのプロ集団を目的としています。

カムラックは、“日本初！”を実践するA型事業所（障がい者を継続して就労支援する事業所）です。週30時間以上の勤務、給与は全国のA型事業所の平均賃金の2～3倍、IT関連のデザイン、システム開発業務を担っています。スーパーカムラックとの3社で、それぞれの役割を担っており、障がい者、女性、シニアの活躍を支援し、地域から必要とされている新しいモデルケースと位置づけられています。

私がこの業界に入ったきっかけは、前職でA型事業所に業務を発注していたことにあります。資料のコピー・データ入力・ラベル印刷などですが、そこで世間からは見えていない障がい者就労支援の実態を知ることができました。仕事をお願いすると、「障がい者のために仕事を出して下さい。こちらはそれを待っています」、「それはできません。それでもできません」、挙句の果てには「何でそんなに理解がないのですか」と言われました。それでもせつかなので仕事をお願いすると、なぜかこちらが敬遠されるという経験をしました。福祉スタッフの言い分は、「あれも、これも、それも障がい者にはできません、させられません」でした。彼らのキャッチフレーズは、「私は人の何十倍もこの業界でやってきた」です。「では、あなたが何十倍と面倒見てきた人たちは、その後どうしていいですか？」

という問いには「何も変わっていません。だって障がい者だから…」でした。この業界に単純作業が多いのは、本当に障害のある従業員の生産性の低さなのでしょう。納税者を増やすはずの政策が、雇ってもらっただけでお金がもらえる障がい者、障がい者を困らせる事業者を産んでいる業界常識にイビツさを感じ得ません。

カムラック開業当時、おそらく初であろう6～8時間働ける事業所を作りました。IT分野での活躍を前提として、障がいがある人を従業員として募集したところ、他の事業所より「給料が倍もらえる」と希望者が押し寄せました。

反面、障がい従業員に仕事を頼むと各方面（市・県・家族・団体・労働基準監督署など）からクレームの嵐がありました。「仕事をさせられる」「話を聞いてくれない」「注意するなんて虐待だ!」と言って駆け込んだらしいです。

この業界の常識は、“働いてお金を稼ぐ”ではなく、“会社に通うとお金がもらえる”ということが分かりました。カムラックグループは、今後とも障がい者・女性・高齢者の就労支援に努力、邁進してまいります。

令和4年度 賢人式

令和4年7月12日（火） 福岡商工会議所にて

松尾会長あいさつ

この会の基本理念は、高齢者の活用と自己研鑽、次世代への継承と社会貢献であり、懇親会による会員同士の交流、例会の企画とその実行を基本としています。会員同士の結束を高め、互いに交流を深めていくことが大切です。平成26年7月に立ち上げ、ちょうど8年目を迎えた今日、互いに交流を深め、有意義なものとして欲しいものです。

バッジの贈呈



松尾会長から当日参加された4名の新会員の皆さんにバッジが贈呈され、その後それぞれの方々から自己紹介がありました。

新賢人の仲間たち（入会順・敬称略）

緒方芳伸、酒井かづえ、佐々木健一、佐保雄二、紫原竜子、三角亘平、吉岡由紀子

長寿を祝う会

対象の方々のご挨拶の様子

今年度始めて導入する行事で、昨年度に対象となった方々も含めてのお祝いとなりました。

喜寿	大嶋重雄さん、宇田川宣人さん、大内田勇成さん、梶原昌幸さん、神屋直邦さん、嘉村捷子さん、林 武夫さん、矢羽田 光さん、橋津寛教さん
傘寿	井手和英さん、齋藤文親さん、惣福脇 亨さん、村上元紀さん、山本忠則さん、岡部重幸さん、久保健二さん、右田喜章さん
米寿	川村 正さん、武藤 仁さん
卒寿	原 寛さん



会員交流会

乾杯の後は、互いの近況や直近の話題などで交流を深めながらの歓談となりました。

の後は、お楽しみ福引に続いて、祝いめでた、博多手一本でお開きとなりました。



開催の挨拶と会場の様子



祝いめでたの唱和

第15回会員例会

令和4年4月21日(木) 福岡商工会議所にて

テーマ：『高齢者雇用対策を取り巻く環境について』

講師：大津 嘉乃氏(福岡労働局 職業対策課 高齢者対策担当)

山崎 洋一氏(福岡労働局 職業対策課 課長補佐)

初めに大津氏から、高齢者雇用安定法の改正(令和2年)による70歳までの就業確保(努力義務)と65歳までの雇用確保措置の導入、加えて70歳までの定年年齢の引き上げまたは定年制の廃止、70歳までの継続雇用制度の導入について法的要素を、続いて山崎課長補佐から、現状や課題等について説明がありました。

この改正で70歳までの高齢者就業確保措置の努力義務化が定められました。

その理念は、人生100年時代を迎える中、働く意欲がある高齢者がその能力を十分に発揮できるよう活躍の場を整備するために設けられたものです。

福岡県の高齢者の雇用状況を見ますと、令和2年度で継続雇用制度の導入は76%、定年の引き上げは21%、定年制の廃止は3%、65歳定年企業は18%で、大手企業ほど導入が少ない傾向にあります。66歳以上が働ける制度のある企業は36%あり、大企業は32%、中小企業36%、70歳以上が働ける制度のある企業は34%となっています。

日本の労働人口(20歳~65歳)の推移は、1990年7,611万人(61%/全人口)~2018年6,954万人(55%)~2025年6,635万人(54%)~2065年4,189万人(48%)とその減少傾向は顕著に現れています。高齢者の身体機能が若返る中、高齢者像が大きく変化しています。健康寿命が延伸しており、高齢者の就業率も上昇しています。就業希望者の2割は「働けるうちはいつまでも働きたい」、4割が65歳を超えて就業することを希望しています。



大津 嘉乃氏



山崎 洋一氏

元気100倶楽部5月例会

(共催：健康創り部会)

令和4年5月8日(日) 福岡ガーデンパレスにて

テーマ：『コロナに負けない身体づくり』 ~自分の身体にあった運動を見つけましょう~

講師：大石 百合子氏(健康運動指導士 原土井病院メディカルフィットネスあおば)



人は、何も努力しなければ体力は落ち、様々な病気を引き起こすリスクも高くなります。更にコロナ禍で、様々な活動に制限を受けることで、体力・筋力の低下リスクは避けられないものがあります。こういう時だからこそ、自分の身体にあった運動を見つけることが大切です。

◆あなたのニコニコペースを知りましょう。

【計算例】 $138 - (\text{年齢} \div 2) = \text{XXX}$ (拍/分)

例えば、70歳の方は、 $138 - (70 \div 2) = 103$ (拍/分) となります。

これ以上のハイペースの運動をすると血圧が高くなる(高血圧症)など、負のリスクが上がる可能性があります。

◆1日に歩く歩数と予防できる病気の関連

歩数	中強度の活動時間	予防できる病気	歩数	中強度の活動時間	予防できる病気
2,000歩	0分	寝たきり	8,000歩	20分	高血圧症、糖尿病、脂質異常症、メタボリック・シンドローム(75歳以上の場合)
4,000歩	5分	うつ病	9,000歩	25分	高血圧、高血糖
5,000歩	7.5分	要支援、要介護、認知症、心疾患、脳卒中	10,000歩	30分	メタボリック・シンドローム(75歳以上の場合)
7,000歩	15分	がん、動脈硬化、骨粗しょう症、骨折	12,000歩	40分	肥満
7,500歩	17.5分	筋肉減少(サルコペニア)、体力低下(下肢筋力や歩行速度の低下)			

健康長寿になるには、[7,000~9,000歩/日・中強度の活動時間15~25分/日]のゾーンが理想です。

◆座ったままの時間が長いほど、死亡リスクは上昇します。

日中の座位時間が増えるごとに、死亡リスクは15%増加し、脂質異常症は18%、高血圧は20%、2型糖尿病は27%増加します。座ったままの時間が長引くときは、立ち上がってこまめに体を動かすことが大切です。1回に30分以上座らないようにしましょう。

テーマ：『命・心・文化』～文化人類学の視点から～

講演：丸山孝一さん(九州大学名誉教授／九州賢人会議所理事)



次の三つの視点でお話します。一つ目「命への関心」、二つ目は「心の問題」、幸せの感じ方・共有の仕方はどうなのか、三つ目は「文化」、社会・技術・価値とは、生きがいを求めるとは何なのか、どういうことなのか。

「命」とは？人間は生物として生まれ、成長とともに人となる。生まれたときは人間として形成されてなく、動物と同じように生物として生まれ、成長と共に人間として形成されていくからです。

動物はある限られた環境に順応して生きていますが、人間は色々な環境に適応できます。さらに健康維持の技術、長寿願望と実現のための技術、環境を整え食料獲得の工夫、治療と予防医学など動物にはできない高い知見と能力があります。

とは言え人としての育ちで見ると、他の動物と比べて出生時の脆弱さ、傷つきやすさは大きく、一人前になる期間は長い(18年? 20年?)です。相互扶助(社会性)の観点で見ると、乳児期の“拾って口に入れる”から“拾ったら人に渡す”、自然と権利義務関係の網の目に組み込まれ、しつけや教育を通して社会的地位と役割関係の獲得へと成長していきます。

心の問題で見ますと、人には人生における喜怒哀楽があります。人は生きていて、楽しいか?長生きしたいか?苦しいか?悲しいか?でも楽しいことは最大に、嫌なことは最小にすることで、心の安らぎが保てます。良いことなのか悪いことなのかは、人それぞれが持つ価値観の問題です。

次は**文化**について考えてみます。「文化」この用語には二つの使い方があります。一つ目は、文化はいいもの、憧れ・教養・理想という捉え方、例えば、文化の日、文化的な生活、新聞の文化欄など、二つ目は、一定の社会の行動様式という捉え方、例えば、生活習慣、良いも悪いもある実態・現実などで、具体的には「七五三」などがあります。

文化はどこまで普遍的かという視点で見ますと、一つに他と共有されない閉鎖的価値観です。自民族中心主義で、自分のところが一番という考え方です。神話や宗教、言語や食習慣、因習などでその傾向が見られます。

二つ目は、仲間内で部分的に共有された価値観です。異文化との共存を認める価値観で、文化相対主義とも言います。具体的には言語、習慣、宗教、食習慣、地域、国家などに違いがあっても共存を認める価値観です。

三点目は、普遍的価値観です。人類愛、ヒューマニズム、基本的人権思想、絶対的平和主義などの価値観です。

この普遍的価値観、文化相対主義、自民族中心主義という三つの価値観は、それぞれに違いがあっても互いに認め合い、共存していく必要がありますが、実態はバラバラで、その価値観の違いが争いの種にもなっています。

私たち人間は、生き甲斐を求めて生きていくことが大切です。生涯幸福論には絶対的または相対的な感じ方があり、満足か・不満足かの判定根拠はどこなのでしょう。身体が健康なのか、財産のゆとりなのか、社会的な円満関係が取れているのか、精神的満足を得たのか、しかし、そのようなことで生き甲斐の測定は出来ません。生き甲斐とは、頭で考えるものではなく、行動の中で感じるものだからです。そこで行動する生き甲斐を見つけましょう。社会的(家族、職場、地域社会、仲間集団)、空間的(故郷、居住地、地域、国、地球)、時間的(年齢、時代)、身体的(健康の程度)な視点で、自己の立ち位置を確認します。そして、相互依存の中での生き甲斐を見つけましょう。自分は自己中心的な行動をする人間なのか、社会的存在としての人間なのか、相手とは相互依存する関係なのか、人は何のためにボランティアするのか、ギブアンドテイクという趣旨なのか、情けは人のためにならずと考える方か、人は本来弱いものであると考える方か、各個人が自己判断して見つけて下さい。

次に高齢者社会における高齢者の立ち位置について考えてみましょう。不可欠なことは、まずは健康であること、経済的に安定していること、社会的にも安定していること、心理的安定・安心が確保されていること、自発性が発揮され、自信が確立されていること、自分のシルバーパワーを信じて誇ることです。高齢者としての誇りをもちましょう。“位高ければ、務め重し”というフランスの格言があります。自分は位が高いと思うことは、自分で決めたことであり、人によって見方に違いがあります。誇りをもって務めることが大切であり、位の高さは他人が判断することです。

(編集記：10月19日開催の「会員例会」においても、同様の内容でご講演いただきました。)